

おちゃわん通信

第 23 号 20151227

「リサイクル」という悩み

食器リサイクル全国ネットワーク

代表 江尻京子

食器リサイクル全国ネットワークの仲間の多くは地元を中心にして陶磁器製不用食器の回収を行っています。回収後は、集まった食器を並べて販売したり、フリーに持ち帰ってもらったりするリユース活動をする人たちやフレコンバッグに詰めて、粉碎工場に運び、再生原料として活用する道を選択している人たち、また、欠けたり、割れたりしたものをアートの素材として見直し、ステキな作品を作りあげる人もいます。

陶磁器産地には、不用食器を原料の一部に使用して新しい製品を作り出し、世の中に送りだしているメーカーがあります。陶芸家の中には回収した食器を含んだ「つち」を使って、作品制作をしている人もいます。

といったようないろいろな場面で、食器をよみがえらせている人々がいて、食器を媒介にしたネットワークが広がっています。

しかし、その外側を見てみると「リサイクル」というだけで、質が悪いとか汚いものといったイメージが先行するようで、「リサイクル食器」と表現したとたんに、げげんそうな顔をする人に出会うことがよくあります。活動に携わっている人は、決して不衛生なものではないこと、LCA 的にも環境負荷が少ないことなど十分に承知しています。でも、一般消費者にとって、あまりよいイメージがないことは否めません。

また、陶芸で使う「つち」を「リサイクル陶土」と呼ぶこともあります。こちらもよいイメージはないようで、下級品のような扱いを受けることもあります。

しかし、実はカクカク、シカジカで・・・と説明をすると、「そういうことなのか」「それならば」と理解してもらうことはできますが、いつもいつもリサイクル云々を語るわけにはいきません。美濃焼産地で使われている Re 食器、Re 陶土はいかがでしょう。リサイクルでないとするれば、こうした表現が適切かもしれません。

ネットワークを広げていくためには、説明しなくてもイメージしてもらえそうなネーミングが必要です。全国ネットも、(1)「食器」とはいうものの陶磁器製食器のみが対象 (2)リサイクルだけではなく、食器にまつわるすべてを活動内容にしている といったことを整理し、誤解されることがないように名前を考えていく時期かもしれません。

なやみながら少しずつでも成長したい食器リサイクル全国ネットワークです。

おちゃわん通信第23号掲載記事一覧

- 活動報告 クリーンむさしのを推進する会
- 岐阜県セラミックス研究所&グリーンライフ21プロジェクト
- 西東京市の「おちゃわんリサイクル」の報告
- 食器リサイクル 小金井市での取り組み
- ワンディッシュエイド 10周年記念イベント～リユースでゴミ減量～
- 食器の色分別のお願い
- 食器リサイクル全国ネットワーク会員募集
- 第23回 TAMA とことん討論会のお知らせ